■その2・鶴見区生麦地区

1―生麦地区への第一歩

鶴見区生麦地区では、まず、地区の概要、地区の抱える課題を把握するために、鶴見区役所の関係各課の職員に対してグループヒアリングを実施した後、彼らに紹介された住民に対してヒアリングを実施した。さらにその人に紹介を受け、順次ヒアリング対象を拡大した。結果的に、調査対象者は町内会を中心とする組織に関連の深い人が多くなった。自主活動グループについては、地区センターで活動しているグループを中心に調査を行った。

2―ヒアリング対象者

自治会・町内会を中心とする活動関係者

連合町内会長（生麦第二地区、鶴見中央）、民生委員／町内会長（西部本宮）兼任者、子供会（生麦第一地区連長）、青少年指導員、体育指導委員、地区社会福祉協議会（生麦第二）、ジュニアリーダーズクラブ、自主的な活動グループ

生麦の昔の姿を考える会、日本語をたのしむ会、さわやか熟年体操、子供の居場所を考える会、学童保育、

教育関係者

生麦小学校（副校長・教務主任）、生麦中学校（校長・副校長・教務主任）、

地域施設関係者

生麦地区センター館長、同センター指導員、同センターコミュニティスタッフ

3―地区の概要

❶―鶴見区生麦地区の特性

㋐利便性の良い地区

調査地区は、市の中心部から約八キロメートル、東京都心から約二十キロメートルの所に位置している。交通条件としては、地区の中央に、JR東海道線、京浜東北線と京浜急行が、また、やはり地区中央を第一京浜道路が、北部を第二京浜道路がそれぞれ縦貫しており、利便性のきわめて良い地区である。

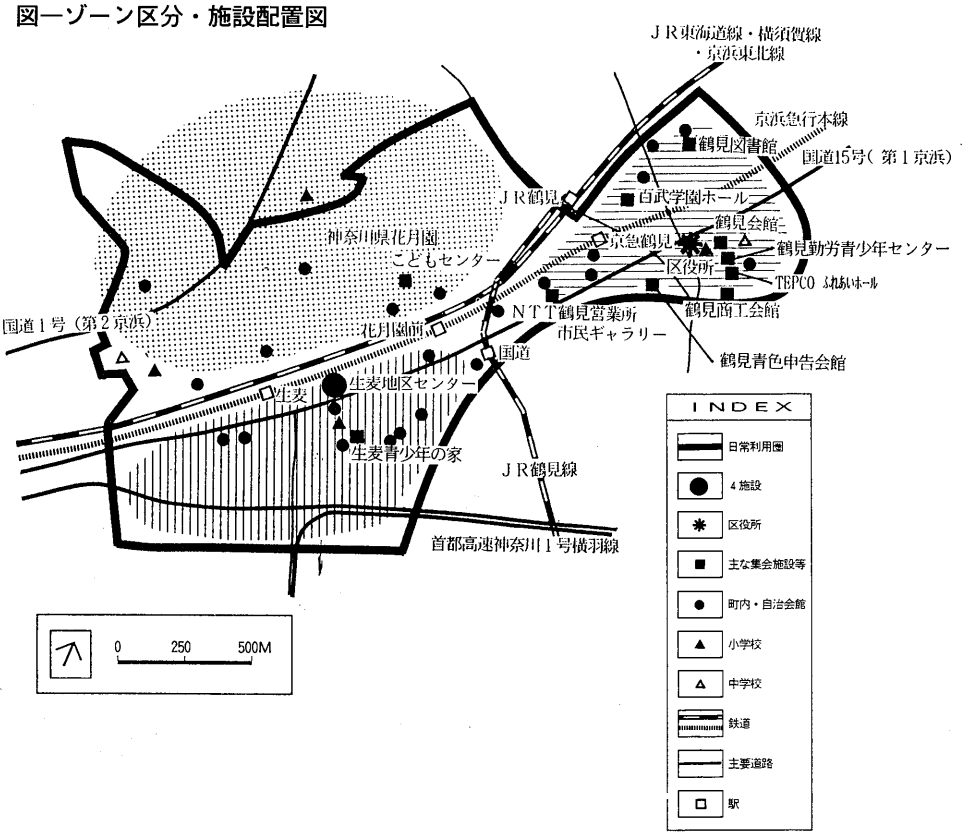
㋑住工商の混在する地区

地区は多様な土地利用となっている。生麦地域など旧東海道沿いは古くから形成された住宅地で、JR鶴見駅、京急鶴見駅周辺は商業地である。また、鉄道以北の丘陵部は高度成長期の開発により形成された新興住宅地である。また、南部の海浜沿いの埋め立て地は京浜工業地帯の一角をなす工業地域である。

㋒地区は三つのエリアに分けることができる

生麦、鶴見、鶴見中央、東寺尾、岸谷の五つの町からなるこの地区は、土地の歴史性や

図―ゾーン区分・施設配置図



1―生麦地区への第一歩
2―ヒアリング対象者
3―地区の概要
4―地域課題
5―自治会・町内会の性格
6―自主的な活動グループ
7―住民の相互関係
8―地域施設の整備状況と利用状況
9―区役所と住民組織

地形、道路・鉄道の交通条件、住宅開発時期などから、次の三つの特徴的なエリアに分かれる。

・古くからの漁師町が基盤の生麦地域

生麦地域は昔の漁師町の伝統を残している地域で、魚河岸通りは海産物店の並ぶ特徴的な界隈となっている。近年では、第一京浜沿いにマンションが増加しており、新住民が増加している。

・新興住宅地を中心とする岸谷・寺尾地域

岸谷・寺尾地域は比較的良好な住宅地が形成されており、総持寺や鶴見大学が立地している。大企業の社宅も多く、近年マンションも増加している。

・駅周辺の商業・業務を中心とする鶴見中央地域

鶴見中央地域は、区の中心であるだけでなく、市の副都心という位置づけであり区役所等を中心に様々な公共施設が集中している。従来は商店主によるコミュニティが中心であったが、近年ではマンションの増加が著しく、住民は多様化している。

・地区全体の開発時期は早い

地区全体は昭和四十年以前にDID地区に指定されており、開発年次はかなり早い。とくに生麦地域は街道沿いで古くからの漁師町であるなど歴史のある地域である。

❷―居住者の状況

㋐人口・世帯の状況

日常利用圏に係る町丁の人口は五万一千五十二人、世帯数は二万三千六百二十三世帯（いずれも平成四年九月三十日、住民基本台帳）である。また、六十五歳以上の高齢者人口は日常利用圏全人口の九・六％を占めている。（平成二年国勢調査）

㋑転入時期で異なる住民タイプ

調査地区は、古くから開発された地区であるが、利便性の高い地区であるため、近年マンションの建設が著しく、新住民が増加している。概ねこの地区の住民は、何代も暮らしている古くからの住民層、住み始めて二十年程度経過する住民層、そして住んで間もない住民層の三タイプの住民層に分けることができる。

❸―地域施設の整備状況

㋐主要施設としては生麦地区センター

いわゆる地域施設旧四点セットの整備状況をみると、生麦地区センターのみが整備されている。

㋑高い町内会館整備率

地区内の自治会・町内会のほとんどが町内会館を持っており、その整備率は八四・三％と高い。

㋒その他の施設

まず、鶴見中央地域では、鶴見駅に近いこともあり区レベルの施設が多く、鶴見会館、鶴見商工会館、鶴見勤労青少年センター、TEPCOふれあいホール、鶴見青色申告会館などがある。また、生麦地域には生麦青少年の家岸谷寺尾地域には、県の施設である花月園こどもセンター、町内会館を兼ねている岸谷児童館などがある。

4―地域課題

❶―新しい住民の増加に伴うコミュニティの分断

調査地区は東京都心、横浜都心への利便性の高い地区であり、近年では、近隣とのつながりを重視しない都市的な暮らしをする住民が増加している。とくに鶴見中央地域では、第一京浜沿いにマンションの建設が盛んで、新しい住民と古くからの住民とのつながりが余りない。岸谷地域においても、近所同士のつながりが少なくなってきているため、町内会では災害緊急時の連絡などに不安を感じている。

❷―日系外国人の増加への対応

近年、鶴見区では、日系南米人（ペルー、ボリビア等）が増加しており、調査地区の中では生麦地域での日系外国人の増加が著しい。例えば、調査当時、生麦中学校五人、生麦小学校七人の外国人が通学しており、日系三世は日本語もできないまま公立の小・中学校に入学するため、現場ではその対応に追われている。

❸―増加する高齢者への対応

地区の六十五歳以上高齢者比率は九・六％で徐々に増加しており、なかでも、独居老人や日中独居老人が増加している。調査地区には国道や鉄道の地区分断要素や坂道が多く、高齢者の生活圏に影響を及ぼしている。鶴見保健所保健婦の話では、地区センターなどで開催されている催し物や教室などに多くの高

表－　生麦地区の概要

人口（H4）	51,052 人	年齢構成（平成２年国勢調査）	０～14歳人口比率	15.3%
世帯数(H4)	23,623 世帯		15～64歳人口比率	75.1%
			65歳以上人口比率	9.6%
日常利用圏に係る町丁	生麦１～５、岸谷１～４、東寺尾３～４、東寺尾東台、鶴見１～２、鶴見中央１～５			
鉄道最寄駅	JR京浜東北線（鶴見駅）、JR鶴見線（国道駅） 京浜急行（京急鶴見駅、花月園前駅、生麦駅）			
地域施設	・生麦地区センター ・町内会館 ・鶴見会館 ・鶴見商工会館 ・鶴見勤労青少年センター ・TEPCO ふれあいホール ・鶴見青色申告会館 ・生麦青少年センター	地域施設	・岸谷児童館 ・県花月園こどもセンター 等々	
		主要商店街 大型店	・鶴見駅ビル ・鶴見銀座商店街 ・生麦・岸谷商店街 等々	

魚河岸通り

齢者が参加しているが、その一方で、本来、最も参加してほしいはずの自力で外に出られない高齢者は参加できていない状況にあるということである。

❹―子育て中の母親の問題

結婚後、出産を機会に退職した女性が、自分の住んでいる地域に余り馴染みがないため、子育ての相談相手を地域で見つけることができず、孤立しているケースが増えている、ということである。

5―自治会・町内会の性格

❶―古くからの自治会・町内会組織が健在

地区には三つの連合町内会、二十七の単位自治会・町内会があり、地域に根づいた組織としてその役割を果たしている。とくに連合町内会長、自治会・町内会長は、地域でもかなり知られている高齢者が引き受けていることが多い。とくに生麦地域は、古くからの漁師コミュニティが形成されているため、地域には緊密な人間関係が残っている。

生麦第一地区連合会では、毎月二十一日に「21会」という会合が開かれている。地区の連合町内会長、十一の単位自治会・町内会長をはじめ、連合の婦人部長、交通部長、民生委員、体育指導委員、青少年指導員、子供育成会会長、消防団長等が一同に会し、行政からの連絡事項の伝達と同時に、地域課題について検討・対処を議論している。その際、テーマの内容によっては、普段参加していない人でも関連のある場合には参加することになっている。

❷―情報の集約化VS役員の固定化

「21会」は、有意義かつ実行性があるという評価の一方で、役員の高齢化と固定化が著しく、考え方が現状肯定的であるという指摘もある。ただし、複数の役職を兼任する人が多く、他の会合等とメンバーが重複しており、他の活動の状況が分かりやすく、情報交流の役割も果たしている。自治会・町内会組織は古くからの住民が役員をしていることが多いため、近年転入してきた住民には馴染みが薄く、また、新たな地域課題に対応して自主的に活動を開始しようという人達にとっては活動を展開しにくい面もあるという声も聞かれた。

自治会・町内会の年中行事としては、地区の運動会をはじめとしてゲートボール大会、縄とび大会、ドッジボール大会等の各種スポーツ大会、餅つき大会、蛇も蚊も祭り等伝統的行事が行われている。その他にも、老人クラブの活動や旅行会、子供会の活動等が行われている。

6―自主的な活動グループ

❶―生麦地域で伝統行事保存運動が盛ん

生麦地域では、近年衰退しつつあるさまざまな伝統的な行事の保存運動が盛んである。例えば、「生麦の昔の姿を考える会」「蛇も蚊も保存会」「お囃子保存会」「甚句保存会」といった活動である。活動の中心は生麦出身の年配者であるが、伝統行事に興味を抱く新しい住民や若い人達も参加し、これらの学習の時間を設けている。さらに、活動の成果は、地区センターの催し物の一環として、それぞれの教室を開催したり、小学校でこれらの学習会を開くなどして積極的に発表している。

蛇も蚊も祭り

❷―地域課題対応型の自主サークル活動

この地域の自主的活動は生麦地区センターの自主サークル活動を中心としている。センターのサークル数は約三十に及んでいる。

その活動は、地域の課題を正面から受け止めるセンターの自主事業から生み出されているものが多いことだ。

たとえば、センターは、青少年のエネルギー発散の場としてレスリング教室を開催したり、近年増加している日系外国人に対しては、地域の日本人ボランティアが日本語教室「日本語を楽しむ会」を開催している。高齢者の健

ティータイム ― 伝統保存の活動

古くから生麦に住むTY氏は、甚句保存会やお囃子保存会などの活動で毎日駆け回っている、地域でもお馴染みのお年寄りである。このような保存会の活動においては、活動の性格上文献や資料を維持保管しておく必要があり、それは活動が長期的に行われる程、郷土資料の分量が多くなる。そのため、資料保管のためのスペースが必要となっている。TY氏の場合、保存会の資料は小学校の好意で倉庫を借りて置かせてもらっているが、資料保管に適切なスペースがなかなか見当たらない。各地域の歴史を伝えるいわゆる重要文化財とまではいかないものも含めた文献、民具等を保存・見学できる郷土資料コーナーなどの資料保管スペースをいかに確保していくかが課題になっている。

康を増進するための「さわやか熟年体操」のグループでは、高齢者を対象とした毎週一回の体操教室に加えて、年四回の健康診断を保健所と協力して実施するなど、高齢者の定期健康診断の成果を挙げている。また、地区センターの向かい側にある施設「ふれあいの家」の草むしりを定期的に手伝うなど、多様な活動を展開している。

❸―子どもの活動

保健所を中心とする子育てネットワークは、この地区でも活発である。保健所が主催している母親教室や親子教室をきっかけとして、子育てグループが誕生しており、地域で孤立しがちな母親達に対する、母親同士の交流や子育てに関する情報交換、情報提供などを目的としている。保健婦の精力的な活動の結果、母親たちのネットワークも拡がっている。

「子どもの居場所を考える会」は、生涯学習グループの講座がきっかけで生まれたグループである。単なる学習グループに止まらず、子どもの抱える心の問題などの相談にのり、頑張る子ども達の立ち直りを目的とした活動をしており、区域内対象に広域的な活動をしている。

7―住民の相互関係

❶―町内会行事等でつながっている古くからの住民

町内会活動を主に担っている住民は、古くからこの地域に居住する人達が多く、地区連合町内会長、町内会長も顔馴染みの人であることが多い。地区連合町内会長や単位町内会長は高齢の人が多く、役職に就いている人同士も顔見知りであることがきわめて多い。

❷―共通の課題を持つ人たちは自主グループの活動でつながっている

課題解決型の自主活動グループの間では、自治会・町内会を中心とした地域のまとまりとは別に、共通の課題を持つ人たちとのネットワークがある。生麦地区では、生麦センターがネットワークの要となっており、人と人、人と情報を結びつける機能を豊富にもっている。また、自主活動グループのリーダー達は、区主催のシンポジウムや区の生涯教育とのかかわりや、区民会議への参加などを通して知り合い、新たなネットワークを作り上げていくこともある。

8―地域施設の整備状況と利用状況

❶―地域施設の整備状況と利用状況

㋐集会・会合

・三つのエリアそれぞれが地域内の施設を利用している。一般に、集会・会合の際には町内会館か地区センターの会議室を利用する。しかし、日常の生活行動の圏域としては三地域に分かれるため、基本的にはそれぞれの地域内施設を利用している。

・生麦地域では、生麦地区センターを中心に利用している。地区センターが混雑し使えない場合や、アルコール類など飲食をしたい時には町内会館を利用する。岸谷地域では、生麦地区センターは遠くて利用することは少なく、岸谷児童館を利用する。岸谷児童館が使えない場合は他の町内会館を利用している。鶴見中央地域では、町内会館の他に鶴見会館や鶴見勤労青少年センターなどを使用することが多く、生麦の地区センターを利用することはほとんど無い。

・整備率の高い町内会館が最も身近な集会施設

町内会館整備率は八四・三%と高く、充実している。建物の規模などは、自治会・町内会によって新旧大小様々であるが、十五～二十人程度の会合であれば充分利用できるので、頻繁に利用されている。ただし、集会等は夜間が中心になるために複数の会合が重なることも多く、事前に調整をとるようにしている。

・町内会と関連しない活動には利用しにくい

町内会館は原則として町内会のための施設なので、その活動団体の役員が町内会の役員を兼ねている場合はその町の町内会館を利用し易いが、子育てグループの活動など単位町内会を超える活動団体が利用する場合、町内会の理解を得にくいという問題点がある。

㋑スポーツ

・屋内スポーツは地区センターか小学校体育館が中心

屋内スポーツは、生麦地域の人々の場合、地区センターの体育館か生麦小学校の体育館等を利用している。ただし、小学校の体育館の場合、利用可能な日が学校開放をしている週末に限定されるばかりか、町内会程度の小規模単位や小規模グループで利用するのは難しい状況にある。また岸谷地域の人々は、地

ティータイム－岸谷児童館

岸谷児童館は、町内会館を兼ねた建物であるが、床張りで小体育館というイメージの広さであるため、剣道の稽古やダンスの練習といったスポーツ活動から、町内の寄合まで多彩な利用がされている。岸谷地域では生麦地区センターが遠いため、岸谷児童館が地区センターの代替機能を果たしていると言える。利用する人は岸谷地域の住民がほとんどであり、また、個人で利用することはほとんどない。

域内にある岸谷児童館が小体育館的な機能を有しているため、剣道やダンス、鼓笛隊の練習等に利用している。鶴見中央地域の住民には、地域内に適した施設が十分にはない。

・屋外スポーツは小・中学校のグラウンド

屋外スポーツの場合、地区の中で利用できる場所はきわめて限られている。地区内には、球技の出来るような公共の大規模なグラウンドはなく、屋外スポーツ活動のほとんどは小・中学校のグラウンドを利用している。地区には少年野球のチームも多く、また、ソフトボールチーム等もあるため、日曜日の小学校のグラウンドは早朝から使用されている。また定期的なクラブ活動以外にも、地区の運動会や夏休みのラジオ体操等、頻繁に利用されている。

・生麦小学校グラウンドは地域の大切な遊び場

地区に大きな広場がないためか、生麦小学校では、放課後になっても小学生の姿は消えず、小学生にとって自分の学校の運動場が重要な遊び場となっている。また中学生も小学校の運動場をよく利用している。

❷—生麦地区センター利用状況

㋐多様な属性の住民がセンターを頻繁に利用

生麦地区センターの利用者はサークル参加者の利用が多い。現在、サークル数は約三十で、体育室、和室、会議室等を定期的に利用して活発に活動している。利用者の属性はサークルの内容によって異なるが、全体としては子ども、主婦から老人まで多様である。

㋑混雑による活動の制約

地区センターはきわめて混雑しており、古くからのサークル活動も多く、利用できる体育室や部屋の大きさ、利用回数が決まっているために、サークルの規模の拡大が困難な状況で、メンバーが固定され、新たに転居してきた人のサークル参加や、新規の活動開始が困難な状況にある。

㋒囲碁・将棋コーナーなど個人利用も多い

サークル利用以外では、センターの自主事業の参加者の利用がある。また、個人利用としては、図書室を利用したり、パソコン、卓球等で遊ぶためにやってくる小・中学生、子供を連れた母親、囲碁や将棋をしに、毎日来る老人等、多様な年齢の人が利用している。調査に訪れた際は必ず多くの人が地区センターを利用しており、「よく利用されている」という印象を持った。

㋓利用者のほとんどは生麦地域の人である

利用者の住所をみると、鉄道以南かつ鶴見線以西である生麦地域に住んでいる人がほとんどである。実際、岸谷地域や鶴見中央地域の人達が個人で利用するために来館する事は余りない。これは、生麦地区センターの日常利用圏が大きすぎ、生麦地域以外の居住者には利用しにくいことが大きな原因である。

❸—生麦地区センターの運営の特色と地域における役割—地域のアンテナとして

㋐人と情報が集まる場としてのセンター

生麦地区センターは、住民同士の交流、情報の発信等を意図的に行う運営をしており、その結果人も集まり、情報も集まる場となっている。多様な年齢層の利用者が一緒に交流、活動する機会として生麦地区センターでは、毎年一回秋に各利用団体合同の文化祭を開催している。利用団体の中には、このような機会をもっと増やしてほしい、との声もある。

センターの役割を単なる貸館的機能に止めず、センターの自主事業等を利用しながら、子供と高齢者、母親、学生達が相互に接触できるような活動を意図的に展開しているためである。

センターの指導員は、地域の多様な人材のネットワークの要となっており、このようなコーディネート機能が発揮されることによりセンターは地域のなかで重要な役割を担っている。

㋑地域の新たな課題対応の場—地域のアンテナ機能

センターは、「自主的な活動」で触れたように、例えば近年増加している外国人居住者に対して、いち早く日本語教室を開催したり、非行問題への対応など地域課題に俊敏に対応している。いわば、センターは地域の問題をいち早く察知し、地域の自主的な力で解決していくアンテナの役割を果たしている。「地域に問題があるのはある意味では、素敵なことでもある」という指導員の言葉は、この生麦地区センターのくぐって来た困難だが、確実な道程を示していよう。

❹—地域施設ニーズ

㋐近くに地区センターが欲しい

生麦地区センターを利用しづらい岸谷、鶴見中央の住民にとっては、それぞれの地域にも地区センターを作って欲しいという人が多

ティータイム－地区センターの指導員

生麦地区センターの指導員であるN氏は、個人の持つネットワークを武器に、積極的に地域課題解決へ向けて活動している。地区センターに持ち込まれる様々な問題－こどもの問題、母親の問題、定年退職後の男性の問題、日系外国人の問題など－を地区センターの活動で解決を図り、もしくは市・区役所や他団体とのネットワークを活かして解決の糸口を与えるなど、コミュニティ・リーダー的役割を発揮している。N氏は、区民会議や生涯学習などの鶴見区レベルでの活動の中で生まれた「出会い」や「問題意識」を生かして、地域コミュニティを支援しているのである。

『地域に問題がある時こそ地域施設が活性化する———
N指導員のヒアリングから』

い。

㋑ふらり立ち寄ってみたくなる施設があればいい

予約をしなくても利用できる施設、個人でふらりと立ち寄ってみたくなるような施設を求めている人がかなり多い。

㋒お年寄りがゆっくり過ごせる場所がこれから必要なのでは

地区センターは、あらゆる年齢の人に利用してもらえるように建てられており、高齢者にとって若い人と接する機会が増えて良い。しかし、建物自体は必ずしも高齢者向けに設計されている訳ではなく、身体機能の低下した高齢者にとっては利用しにくい。高齢化社会を迎え、独居老人も増加することが予想されるので、訪れた高齢者がゆっくりくつろげるような施設（例えば入浴施設、給食サービス等々）がほしいという意見もあった。

㋓大きな公園がない

大きな公園、広場がほしいと言う意見がかなりあった。現在、学校の運動場しか利用できる場所はなく、混んでいて思うように使えない状況である。また旭硝子やキリンビールの厚生施設も近くにあるが、現在使用できない。大きい公園があれば、野球、サッカー等のスポーツ、お祭り等に使える。

㋔その他

その他の施設ニーズとしては、「町内会館を建て直してほしい」「地区センターの横に小体育館を建ててほしい」「市民プールが欲しい」「大勢が集まれるような会館が欲しい」「バスケットゴールが公園にあればいい」等があった。

9 区役所と住民組織

㋐自治会・町内会による区役所から住民への情報伝達機能の役割

自治会・町内会を中心とする従来組織は、区役所からの情報の伝達網として一定の役割を果たしている。

㋑行政主催のシンポジウム等によるリーダー達のネットワーク化

また、区役所や市が開催するシンポジウムや区民会議といった集まりが、地域で活動する人や問題意識を持った人同士の出会う場所、職員と顔見知りになる場所としての役割を果たしており、そのような場への参加をきっかけにして、地域のリーダーが育っていくケースもみられる。

㋒自主活動グループと行政のつながりは今後の課題

自主活動グループと行政の関係は、今回の調査の中ではそれほど強い関係が見受けられなかった。

生麦地区センター指導員のネットワークはきわめて広く、このような「連絡ピン」の役割ができる住民や市区職員を一人でも多く育成していくことが、区全体の活性化につながっていくのではないかと思われる。

＜ヒアリングは、桜井悦子、坂本道弘、早福千鶴、高安宏昌が行い、文章は坂本がとりまとめた。＞